

# 令和5年度日野市廃棄物減量等推進審議会 要点録

## ■会議の日時等

日時 令和6年(2024年)2月15日(木) 午後3時~午後4時30分

会場 日野市クリーンセンター プラスチック類資源化施設 2階多目的室

出席者 **審議会委員**

【市民委員】

加納委員、加瀬委員、近藤委員

【事業者委員】

藤原委員、松枝委員

【資源回収業者及び廃棄物収集業者委員】

高松委員、多治見委員、新野委員

【学識経験者委員】

宮脇委員、渡辺委員

**事務局**

【環境共生部】

小平環境共生部長兼クリーンセンター長

【ごみゼロ推進課】

小澤課長、高橋課長補佐、阿部係長、河本

傍聴者 なし

次第

<審議会>

### 1. 報告事項

◆可燃ごみ中への水銀混入について【資料1】

◆ごみ・資源物量について

・1人1日あたりのごみ、資源物排出量について【資料2-1】【資料2-2】

・ごみ収集、資源物回収量について【資料3】

・ごみ量の10年推移(H25~R4)【資料4】

・清掃概要(令和4年度実績)について【資料5】

・可燃ごみ処理施設、プラスチック類資源化施設 搬入状況【資料6】

### 2. 諮問事項

「令和6年度一般廃棄物処理計画(案)」について

## ■ 要点録

<審議会>

### 1. 報告事項

(1) 事務局より、資料 1 に基づいて「可燃ごみ中への水銀混入について」報告

《質疑応答》

A 委員:どのくらいの量の水銀が炉に入ると、どのくらいの値が検出されるのか?

また、ごみ搬入経路としては、一般ごみなのか事業系ごみなのか不燃物からなのか?

事務局:どのくらいの量の水銀で高い数値が検出されるのかは、可燃処理施設管理者にも確認したが、正直不明である。ただ、血圧計のようなものが入ると検出させるというのは確認している。日野市・小金井市・国分寺市の 3 市で水銀回収キャンペーンに取り組んだ。3 市合計で 600 件ほど回収でき、まだまだご家庭に水銀製品が眠っているのだと感じた。

搬入経路は、なかなか判断しづらい状況である。ただ、おそらく事業系は多くの水銀製品を所有していると思われるため、医師会・歯科医師会・薬剤師会・商工会・介護事業所などに文書を送付した。

A 委員:他の焼却施設では、これほど水銀が問題になっていないと思うが、何か理由があるのか?

事務局:浅川環境組合の可燃処理施設が、非常に厳しい施設で、高精度の検知システムを設置していることが要因のひとつと考えている。

B 委員:水銀混入について、焼却炉に入る前には発見できないものなのか?

事務局:すべてのごみを検査するということは、物理的に不可能である。

### (2) 事務局より

- ・資料 2-1、2-2 に基づいて「1 人 1 日あたりのごみ、資源物排出量について」報告
- ・資料 3 に基づいて「ごみ収集、資源物回収量について」報告
- ・資料 4 に基づいて「ごみ量の 10 年推移 (H25~R4)」報告
- ・資料 5 に基づいて「清掃概要 (令和 4 年度実績) について」報告
- ・資料 6 に基づいて「可燃ごみ処理施設、プラスチック類資源化施設 搬入状況」報告

《質疑応答》

A 委員:資料 5 では 1 人 1 日当たりの排出量が 600g を切ったとのことだが、他の資料を見るとこれとは異なる数値が見受けられたりするが、この違いは?

事務局:集団回収 (自治会や子ども会等) の分があるため、多少の差が生じている。

A 委員:資料 3 には、集団回収分も含まれているのか?

事務局:資料 2-1、2-2 には集団回収分が含まれていて、その他は含まれていない。

なお、資料 3 については 12 月分までの数値となっている。

C 委員:資料 3 の新聞や小型家電の増減率が大きく減少しているが、理由としては生産自体が減少しているということなのか?

D 委員:新聞については、購読者が年々減少している。多摩地域は都内と比較すると、減少率が多少はなだらかである。デジタル版に移行されている方が多い。

事務局:小型家電については、推測であるが令和2年度及び3年度頃は、コロナ禍で家電製品の買い替えが多く、それに比例して回収量も多かったが、それが落ちてきたことで前年度比が大きくなっているのではないかとと思われる。

B 委員:今の時代、新聞紙や雑紙が減少するのは理解できるが、ダンボールが減少している理由は何かあるのか?

事務局:これもコロナ禍の影響として、巣ごもりが増加し、自宅への宅配が多くなったが、それが落ちてきたことが要因のひとつと考える。

## 2. 諮問事項

事務局より、別紙に基づいて「令和6年度一般廃棄物処理計画(案)」について諮問実施

《質疑応答》

B 委員:ごみに関しては、このような会議に参加させていただき、説明等を伺う中で、知識として広がった。ただ、最近近所での解体工事を見ていたが、様々な廃材を細かく分類していて驚いた。ほとんど資源で、ごみとなるものはないのではないのか。ひとつ疑問だったのが、木材の処理方法であった。こちらで分かれば教えていただきたい。

事務局:産業廃棄物になるので、行政では処理していない。民間の処理施設で実施していると思われる。

会 長:建設リサイクル法の実績では、90%以上は再利用されている。木材もチップ化されバイオマス燃料として活用されている。

A 委員:計画(案)3ページの事業系廃棄物について、「プラスチック類ごみ」という表記があるが、制度的には事業所から排出されたプラスチック類ごみは産業廃棄物として処理されるはずだが、それをここに表記することに問題はないのか?

また、日野市は事業系ごみの処理手数料はどうなっているのか?他市と比較してどうなのか?

事務局:原則、事業系ごみは受けないという考えであるが、余力の範囲内で、1回の排出量が45リットル袋で2袋までの市内少量排出事業所のみは回収している状況である。

ごみ処理手数料については、一般家庭は1リットルあたり2円、事業系は45リットルで300円なので、1リットルあたり約6.7円。他市と比較して、一般家庭用及び事業系ともに多摩地域では高い部類に入っている。

A 委員:事業系可燃ごみが持ち込まれているが、しっかり指導等をおこなわないとプラスチック等が混入していると思うが、対応はどうなっているのか?

事務局:市の許可業者により可燃ごみが持ち込まれている。浅川清流環境組合・日野市・小金井市・国分寺市の職員により、不定期にごみ袋をすべて開けて中身を確認する抜き打ち検査を実施している。資源物等が混入していた場合は、指導を実施。

A 委員:計画(案)9ページの⑬について、持込ごみの手数料については検証されないのか?

事務局:持込ごみも含めて検証ということである。

A 委員:日野市の持込ごみ手数料は?

事務局:1kgあたり42円である。

C 委員:4ページ(2)の収集運搬量について、これは決まった量なのか?

事務局:令和4年度実績値を基に記載した想定最大値である。

C 委員:5ページ(3)について、日野市はカラスの捕殺をおこなっているか?

事務局:市では、おこなっていない。

C 委員:レジごみ袋について、売れ行きは?

事務局:好評をいただいております、令和6年度以降も拡大していきたい。

C 委員:素材として、プラスチックを減らしていると生分解性が高くなるので、あまり在庫を抱えられないと思うが、そのあたりは大丈夫なのか?

事務局:使用する分だけ、その都度制作しているので、在庫を抱えてはいない。また、自然由来の環境に優しい素材を使用している。

C 委員:ダンボールコンポストについて、多くの人を取り組めばそれだけ環境には良いので、是非広めていきたい。学校教育においても、子ども達に伝えていきたい。

会 長:教育委員会との連携だと、すぐに実施するのは難しいかもしれないが、是非事務局と一緒に取り組んでいただきたい内容である。

C 委員:介護系の仕事をしているが、おむつの排出が多いと感じている。おむつのリサイクルは、現在、技術的にどうなっているのか?

会 長:技術的には可能。環境省においても、おむつのリサイクルを進めようとしている。ただ、収集方法や集積場所について、様々な問題があるため、なかなか進んでいない状況である。

事務局:静岡県掛川市が、ユニ・チャームと共同で取り組むという話は聞いた。

A 委員:市立小中学校から排出される給食残渣は、どうされているのか?

9ページ②について、どのような生ごみを、どれくらい堆肥化されているのか?

8ページ⑥にある「せせらぎ農園」による生ごみリサイクルの実績は?

7ページイ)で、食品ロスに触れているが、日野市における1日1人当たり食品ロスは把握しているか?

事務局:市立小中学校から排出される給食残渣は、城南島へ持っていきリサイクルを実施。

生ごみについては、まちの生ごみを考える会と連携し、ダンボールコンポストの普及などをおこなっている。一般家庭の生ごみについては、今後深く検討していく必要があると思っている。せせらぎ農園の生ごみリサイクル量については、本日、持ち合わせていない。

日野市の食品ロスについては把握できていない。

A 委員:食品ロスについて、組成調査を実施していると思うので、その中に組み込めばそれほど難しいことではないと思える。

事務局:組成分析で、3~4割が食品ロスとは把握している。

A 委員：市立小中学校から排出される給食残渣量は、資料 5 などには反映されているのか？

事務局：あくまで市の可燃処理等に搬入された量だけを計測しているため、資料 5 などには反映していない。

E 委員：家庭には、いわゆる「隠れごみ」が多くあると思う。

F 委員：別紙 8 ページ④の集団回収事業とは？

事務局：自治会や子ども会などが、家庭から出る古紙・缶・びんなどの資源を持ち寄り、それを回収業者に引き渡す自主的な資源リサイクル活動のこと。

F 委員：集団回収を実施している団体へ、ごみに関する様々な情報等を広めてもらう・啓発してもらうことなのか？

事務局：以前はそのような考えもあったが、現在は異なる。市として積極的に推進していくということではない。

D 委員：昔は集団回収が主であったが、行政回収や販売店回収が始まったことで多様な排出先になった。マンションの管理組合が集団回収を実施している例もある。

F 委員：別紙 9 ページ⑨について、ごみパトロール隊とは？

事務局：例えば、集合住宅でごみの出し方が悪かった場合に指導の実施や、障がい者等ごみを出すのが大変な方に向けたハンディキャップボックス設置等をおこなっている委託事業。

F 委員：どこに連絡すればよいのか？

事務局：ごみゼロ推進課へ。

F 委員：ごみパトロール隊について、何かの媒体に記載等はあるのか？

事務局：以前は、ごみ情報誌「エコー」に記載していたこともあったが、最近は載せていない。

F 委員：自治会で、ごみゼロ推進委員という役割があるが、どのような活動をしているのか？

事務局：地域に対して、ごみの減量を啓発してもらう役割を担ってもらっている。

F 委員：別紙 9 ページ⑩について、現在、何か具体的な働きかけ事項はあるのか？

事務局：これから市が進めていこうとする事業に対して、費用面での要請等をしている。

G 委員：普段、ひの回轉市場で活動をしている。そこでは、次に使う人が気持ちよく使えるものを無料でいただいている。このような場所を、是非活用いただきたい。

会 長：皆様より様々なご意見等を頂戴したが、修正等のご意見はなかったかと思う。市から諮問された「令和 6 年度一般廃棄物処理計画(案)」について、審議会としては「適当である」という結論でよろしいか？

委員一同：異議なし